

歴史と街づくり活動の経緯

1. 「エコロジー団地池田の森」の特徴

1) 自然環境、地域コミュニティと農

エコロジー団地池田の森（以後池田の森）は団地の真ん中の1,000㎡の農園と、その周囲に配置された35戸の住宅、小さなショップ、オフィスやアトリエなどからなる住宅地だ。農園は5坪ほどの小さな畑に区分けされ希望する住人に貸し出される。各戸に雨水を溜めて利用するタンクや、雨水を地中へ浸透させるインフラを持ち、畑と田んぼが作る里山の風景の中で、日々自然の恵みを感じながら暮らすまちだ。畑は野菜を収穫する場所というだけでなく、コミュニケーションを生み、生き物の生息空間をつくり、四季を感じる安らぎの空間となり、子供たちの遊びや学びの場でもあり、自然の循環を維持する場でもある。



畑とともに池田の森のもう一つの大きな特徴は、団地内の風景の多様性があげられる。道路団地内に通過車両が入り込まないような道路計画と、団地内外をつなぐ緑歩道、大きな畑の空間により、場所ごとに違った変化に富んだ景色が展開される。緑歩道を歩いて感じる、この単調や画一という言葉と正反対の雰囲気、住人は、団地の内側は自分たちの界限という意識が強くはたらく。そして外にも開かれた団地内は周辺に住む人、ショップなどにくる買い物客にも豊かな雰囲気を感じてもらえる。

池田の森の開発面積は約13,000㎡、2003年に造成が完成し、2004年から入居が始まった。池田の森には自治会組織はなく、地元の池田地区自治会に3組にわかれて所属している。

2. 池田の森農園クラブと新たな役割

池田の森農園クラブは畑を利用する住人により設立された任意団体であり、2006年に全世帯の半数以上の19世帯により発足した。今回の受賞を機に、農園クラブ規約の目的に池田の森の住環境の維持管理という文言を加え次のように謳っている。

「農作業を通じて自然にふれあいながら、その育成を楽しみ、安全で良いものを次の世代に伝えてゆくこと。また、池田の森の住環境の維持管理に取り組むとともに、互いにコミュニケーションをはかり、親睦を深めることを目的とする。」

こうして農園クラブは野菜づくりや親睦のみを目的とするだけでなく、団地全体のコミュニケーションや維持管理までを考える、団地横断的な役割も見据えた組織として活動することになった。他に池田の森の全世帯が参加する組織として、池田の森緑地愛護会という組織があり、緑地や緑道などの草取り清掃活動を行っている。

3. 池田の森農園クラブの活動

1) 活動の歴史

2006年4月から池田の森農園クラブの活動が始まった。初めは農園クラブの規約作り、畑の区割り作業や区割りされた畑のどの区画を誰が使うのか決める会合に時間がかかった。

並行して、子供も総出で畑の土の石拾いなど畑の整備、落ち葉のコンポスター作りなどの作業をして、だんだんと作物を植える準備が整っていった。

分譲時から、家のすぐ前に畑が持てるということに魅力を感じていたクラブのメンバーたちは、早く苗を植えたり、種蒔きをしたいという待ちきれない熱気があった。

農業の経験のないメンバーが、規約で決めた無農薬栽培を基本とする野菜作りを始めるとあたり、無農薬農業を実践している知り合いの農家に講師を依頼して皆で話を聞いたりもした。



農園クラブの活動開始後一年ほど過ぎた頃（2007年7月7日）の新聞記事

野菜づくりもまだ手探りの時だが、みな楽しそう

2) 活動予算

農園クラブが発足してから数年間は、年会費 3,000 円を集めていたが、クラブの性格上共通目的の出費がほとんどなかったため、現在は必要な時に徴収する方式に変更となっている。

3) 活動内容

農園クラブという組織が、自治会や管理組合と全く異なるため、今までの活動内容はメンバー同士やメンバー以外の住人を含めた親睦をはかるものを中心になってくる。このことは大きく変わらないと思うが、今回の受賞を機に団地共通の問題を農園クラブらしい切り口で取り組もうということになった。

通常の活動には次のようなものがある。タケノコ掘り、田植え、収穫祭バーベキュー、稲刈り、森の市フリマ。農園クラブの活動とは直接関係はないが、リタイア組が増えてきたこともあり、農園クラブのメンバーが2週に1度アトリエで自彊術（じきょうじゅつ）体操の教室が始まった。住人だけでなく近所の女性たちが通い始めている。

活動への参加は畑の脇にある掲示板でお知らせをすることが多く、これも緩くつながるコミュニティのあり方の一端が見える。

